

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570700314		
法人名	株式会社ケア・リンク		
事業所名	はぴね周南		
所在地	山口県下松市生野屋南1-7-10		
自己評価作成日	平成23年8月22日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・畑で野菜を育てたり、収穫した野菜を料理して食べる等、普通の生活をするということを大切にしている。 ・地域の一人として社会貢献しながら、地域に根ざし生活者として暮らせるよう取組みをしている。 ・認知症デイとの連携もあり、日々の中にたくさんの楽しみがあり、自分で選択しながら参加できるよう取り組んでいる ・ご入居様が心穏やかに安心して暮らせるよう研修を充実させ、職員の認知症についての理解を深め寄り添う介護を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小学校のスクールガイドボランティアとしての活動を小学校や教育委員会と話し合い、毎日利用者と職員が交代で下校時、校門における見守りや通学路の安全パトロールを行われ、子どもとのふれ合いを楽しみにされるほか、1ヶ月2回、交流センターや道路の清掃が行われるなど、利用者は生き生きとされています。野菜作り、社交ダンス、手工芸品づくり、習字、お茶などの楽しみ事や活躍できる場面づくりや、利用者の希望で週3回合唱の練習をして、地域の音楽祭に出場されるなど、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つのPというはびね特有の運営理念があり、その理念に基づいて日々介護に従事している。理念の共有と実践を図るため、研修を実施している。年に2回の評価時には達成度の評価も行っている	法人の理念である5つのPをどう実現していくかを職員全員で考え、研修を実施し共有して、その理念の一つであるPeaceに着目し、地域との新しい取り組みを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のクリーン作戦を毎月実施。夏祭りへご招待。花岡小学校のスクールガイドボランティアとして毎日の交通安全パトロールを実施。地域の音楽祭へ出場。中学生の体験学習受け入れ。	小学校のスクールガイドボランティアとしての活動を小学校や教育委員会と話し合い、毎日利用者と職員で下校時校門での見守りや通学路の安全パトロールを行っている。1ヶ月に2回交流センターや道路の清掃を行っている。法人主催の夏祭りに地域の人が参加したり、地域の音楽祭に利用者が合唱で出場するなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や、地域の介護セミナー等でお話をさせていただいている。加えて、介護支援専門員協会の理事として認知症の研修に尽力している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を踏まえさらなる質の向上を意識している。	各ユニットリーダーが職員に評価の意義を説明した上で意見を聞き作成した自己評価を管理者がまとめている。全職員での自己評価の取組みには至っていない。	・全職員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際の活動状況を見ていただくことに重点を置いている。その上でご意見をいただき日々の運営の参考としたり改善をしたりさせていただいている	利用者、家族、民生委員、他事業所の管理者、地域包括支援センター職員、管理者、リーダーで2ヶ月に1回開催している。利用者の状況報告やサービスの内容、行事報告などを伝え、意見交換している。	・参加メンバーの検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何でもオープンにご報告、ご相談させていただくようにしている。	市介護保険課とは、日頃から運営やサービスについて相談し、地域包括支援センターを含めて協力関係を築くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修を実施し、身体拘束を行わないケアを意識しているが、環境的に施錠せざるを得ない箇所もある。また、ベットの柵の使用についても、ご本人様の安全を確保するため、ご家族からの依頼でやむを得ず使用しているケースもあるが、市役所にも内容を報告する等慎重に対応している	身体拘束をしないケアについて毎年1回研修会を実施し、職員全員がレポートを提出するなど理解を深めている。利用者の危険を回避するやむを得ない場合でも、職員間でよく検討し、できるかぎり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修を実施している。本年度は心理的虐待防止に重点を置いた取組みをしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修を実施している。現在この制度に該当する方はおられない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様には不十分と感じられることがあるかもしれないが、運営規定や重要事項説明書等も丁寧にご説明をさせていただいている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口は明確にお伝えし、苦情の箱も設置をしている。家族会や、ご家族アンケートを年2回実施する等、苦情に繋がりそうなご意見も含めて見過ごすことなく拾い上げできるだけ早く対応するよう心がけている。	年2回実施の家族アンケートや年2回開催の家族会のほか、来訪時や行事参加時等に意見や要望を聞いており、それらを運営に反映させている。相談苦情の窓口および担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを明確に定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し、全体会議の中で意見を聞くようにしている。都度報告や相談を受けたときは、すぐに対応するよう心がけている	毎月1回の全体会議、ユニット会議の中で職員からの意見や提案を聞く機会を設けるほか、回覧ノートに日々の気づきや意見を記載し、職員同士で情報共有をして運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や介護技術の勉強会を内部で開催し、介護福祉士や認知症ケア専門士の試験合格を目指し育成している。外部研修では、PT、OTに介護技術の指導を受ける等の取り組みも実践した。	内部研修は毎月1回実施し、外部研修は段階に応じて受講の機会を提供している。認知症ケア専門士の資格を習得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会を2ヶ月に1回開催情報交換している。また、今期は職員の交流会を開催。ネットワークを広げ、下松市のGH全体で介護者の質の向上を図る。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	そのように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そのように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パートナーシップは「はびね」の理念のひとつでもあるため、常にそうであるよう務めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	パートナーシップは「はびね」の理念のひとつでもあるため、常にそうであるよう務めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのように努めている	親戚や知人の訪問や以前利用していたデイサービスでの交流、自宅へ行くなど馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮、活動時の関りの支援等、そのように努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、書中見舞いといった定番のものだけでなく、近況報告も含め気軽に電話で話ができる関係性を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのように努めている	アセスメントで本人の趣味や嗜好を把握し、利用者の担当職員が思いや希望を直接聞くなどして意向の把握に努めている。困難な場合には、表情や動作からくみとり、本人の視点に立って検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのように努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	そのように努めている	利用者の担当職員の素案を基にケア会議を開催し、利用者の意見、家族からのヒアリングシートの結果、主治医からの意見等を参考にしながら介護計画を作成している。モニタリングを毎月実施し、3か月毎の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのように努めている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に家族が遠方にいる場合の通院の支援等でそのように努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでボランティアにきていただくことが地域との主な交流であったが、平成22年度より、地域のクリーン作戦やスクールガイドボランティア等、自分達が社会資源になるということ意識しながらの取組みをしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	そのように支援しております	本人や家族の希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診を支援している。協力医による往診は1週間に1回実施している。受診は基本的には家族同行となっているが、不可能な場合は職員が代行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	そのように努めている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のDr、やSW、NSと情報交換するように努めている。退院時の担当者会議やカンファレンスに参加、開催されない場合はサマリーを依頼する等、何らかの形で情報をいただけるよう関係作りをしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や家族会を通じて意見交換をしている。また、主治医とも十分に連携をとり必要な支援をしている	重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族等と話し合い、主治医と相談しながら、事業所としての対応を職員間で共有して、支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	研修の実施。ヒヤリハットや事故報告を全職員で共有し、再発防止に努めている。加えて、1人1人の状態を把握、起こりうる事故を想定し、「転ばぬ先の杖」を心がけている	ヒヤリハット・事故報告書に記載し、再発防止の為の方策を話し合い、生活環境の改善や介護計画の見直しを行うなど、一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。年1回、消防署による応急手当の訓練や誤嚥等の対応について内部研修を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修や年2回の非難訓練を実施している。緊急連絡網の整備、非常時の応援体制の整備。緊急時には近くの地域交流センターが避難の受け入れ協力をしてくださる。	災害マニュアルを作成し、年2回夜間想定も含めて避難訓練を実施している。水害、がけ崩れに対する対応を消防署と話し合っている。緊急時は、併設のデイサービスの職員の協力を得られるが、地域との協力体制は十分とはいえない。	・地域との協力体制の検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修や認知症の勉強会を重ね、努力をしている。	接遇研修や認知症研修を実施し、日常の関わりの中で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。利用者への言葉かけや対応が不適切な時は、管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が可能な方にはもちろんそのように働きかけているが、意思の疎通が困難だと思われるケースでも、きちんと説明し、実行した際の態度や表情から思いを読みとるようにしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長期入居者様が多く、ほとんどの方は「特に何をしたいということはない」と自発性が乏しい。たくさんのメニューから喜んでいただけそうなものへ参加を促すというケースがほとんどだが、希望のある方はそれを尊重している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ケアプランにお化粧品や髭剃りといった部分を盛り込み、必ず支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	そのように努めている	昼食、夕食は配食であるが、朝食は事業所で作っている。畑でとれた野菜の下ごしらえや配膳、片付け、茶碗洗いなど利用者ができることを職員と一緒にしている。毎月1回行うハッピーパーティーでおやつを作るなど、食事が楽しめるよう工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や栄養状態の悪化から、せん妄が現れたり、認知症が進行するケースがあることを周知徹底しているため、適切な支援ができている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのようにしている。歯科医にも定期的に往診していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	幸い居室にトイレがあるため、比較的重度になられても、トイレで排泄できるケースが多い	排泄チェック表に記録し、利用者一人一人の排泄パターンを把握して、タイミングに合わせ声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分補給及び、お茶寒天の摂取等、日常生活の中で気をつけている。併せて個人ごとの状態を把握し、主治医との連携のもと、必要な方は服薬もされている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	昨年まで、週3日(夏季は4日)の入浴日に入浴をしていただいていたが、今は週3回は原則で、希望があれば毎日入浴できるようにしている。それでも、職員の配置人数や就業時間の制約があり、ご入所者様の希望通りにはできていない。	週3回13時30分から17時頃の間に入浴としているが、希望があれば毎日入浴可能で、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。利用者の状態に応じて、足浴、シャワー浴も行っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように支援しているが、生活のリズムを整え夜間、良い状態で睡眠が得られるよう、日中の休息時間は長くないように心がけている(趣味的活動をしていただく等退屈させない支援等)		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸活動、手工芸作品づくり、コーラス活動、社交ダンス、習字、お茶、DSと合同のハッピーパーティー、散歩等多彩な趣味活動の支援をしている	野菜づくり、手工芸品づくり、社交ダンス、習字、お茶などの楽しみ事や活躍できる場面を作り、利用者の合唱をしたいという希望から、合唱担当の職員を決め、週3回合唱の練習をして、地域の音楽祭に出場するなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の要望は出来る限り対応するように努めている。希望がなくても、戸外で外気浴をしたり、ドライブや外出する機会を設けるようにしている。お誕生月には本人の希望により日帰り温泉に行くといった個別の対応もしている。	季節の花見やなし狩りなどへお弁当を持って出かけている。地域で行われるコンサートやイベントに出かけたり、ドライブに出かけたりしている。日常的な散歩や買物のほか、外食、温泉など個別の対応もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や経済状況に応じた対応をしている。買い物希望があれば付き添う等の支援をしている。金額に関してはおこづかい程度ということで調整させていただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのようにしている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている努めている	リビングは明るくバルコニーから遠くの景色が眺められ、季節感がある。壁には手作りの大きなカレンダーや季節の貼り絵、行事の写真等が飾っており、和室や談話コーナーなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話コーナー、和室、マッサージコーナー等思い思いに過ごせるようにしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしている	各居室に洗面台とトイレが備え付けてある。利用前に本人や家族と話し合い、ベッド、椅子、テーブル、タンス、テレビ等の使い慣れたものや、位牌や写真、小物、ぬいぐるみ、手作りの作品など利用者の大切なものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面で難しいこともあるが、ソフト面は出来る限りそうしている		